

1. 教育目標 自ら進んで、楽しく学び続け 様々な見方をして考えを深め、自分の言葉で発言(表現)し 共に学び磨き合う、最後まであきらめない いつも元気な三郷っ子
2. 重点目標
 - ①基礎基本の定着と活用力の育成
 - ②対話力をみがき、認め合う力の育成
 - ③進んで健康な体をつくる子の育成
3. 重点目標・達成指標、重点的取組等

| |
|--|
| 評定判断基準 A ……達成率90～100% B ……達成率70～ 89% C ……達成率60～ 69% D ……達成率60%未満 |
|--|

| 重点目標 | 達成指標 | 重点的取組 | 取組指標 | 項目 評定 | 評価 | 学校への意見及び要望 |
|------------------|--|-------|--|----------|----|---|
| 基礎基本の定着と活用力の育成 | ○児童アンケートにより、「自分の考えを説明できた。」と答えた児童を80%以上にする。 ○単元テストで80点以上の児童割合を各学年80%以上にする。 | 学校 | ○自分の考えを持ち、伝え合う場のある授業に取り組む。 ○毎日1回は、説明の基本形を活用して、ペア・グループ学習で自分の考えを伝え合う場を設ける。 | A | B | ○通常の授業では、学年ごとに成長段階が違うため、全学年での取り組みは困難と予想できるが、高学年でできるように段階的に指導ができています。 ☆学力向上のための授業改善の内容は、答えを出すだけでなく自分で書き発表させること、お互いの考えを見える化し人の意見を聞き合うことが重要だと思ふ。 ○各教科によって、工夫されたICT機器の使用がなされている。 ●まだまだ不十分である。 △自学については、得意分野をする傾向がある。 ☆週に1回ぐらい、個人の不得意分野の自学をさせるようにしてはどうか。 ☆我が家では連絡帳をあまり見ていないので、気をつけたいと思う。 ○学校公開日の出席者が多い。 ●まだ学校公開日の参加が少ないように思う。 ☆異文化交流キャンプは大変良い経験になる取り組みなので、今後も継続して欲しい。自己肯定感も持てるようになると思う。 |
| | | 学校 | ○子どもの理解や思考を深めるための効果的なICT機器等を活用した授業づくりに取り組む。 ○毎日1回は、授業の展開段階でICT機器等を活用することに取り組む。(①わかりやすく説明するため②比較して児童の思考や理解を深めるため) | A | | |
| | | 家庭 | ○家庭学習の習慣化を図る。 ○毎日、家庭学習の連絡帳へのサインと声かけを行う。 ○毎月1回「家庭学習チェックシート」に感想を書く。 | B | | |
| | | 地域 | ○学習支援をするために、なかつすくプロジェクト(学習サポーター)に参加する。 ○なかつすくプロジェクトで、さまざまな学習活動に参加要請があった時は、積極的に参加する。 ○学校公開日等の行事へ積極的に参加し、学校の取り組みについて感想などを述べる。 | B | | |
| 対話力をみがき、認め合う力の育成 | ○児童アンケートで「児童朝会や遊び集会などで感想を言えた」と回答した割合を70%以上にする。 ○自己評価アンケート(児童・保護者)で「あいさつ+1ができた」と回答した割合を80%以上にする。 | 学校 | ○お互いに認め合う集団づくりを行う。 ○全校で「いいとこみつけの木」に取り組む。 ○対話力を磨くための「あいさつプラス1」に全校で取り組む。 | A | B | ○アンケート結果から先生方や保護者から良くほめられていることが分かる。 △児童朝会や集会で日常的に感想発表を実践されているが、子どもたちにまだ自信がないこともうかがえる。 ○先生がその子に合ったやり方で発言しやすいように気を配っていることが分かる。 ○しっかりとできているようだ。 ☆「おはよう、顔洗った?」「おやすみ、歯磨いた?」等のあいさつをするようにする。 ☆児童とのあいさつは成立するが、もっと児童から積極的にあいさつして欲しい。 ☆今後は、地域での子どもたちの様子について、積極的に学校に伝えようと思う。 ○あいさつが良く、話しかける子どももいて良い。 △あいさつは良くできているが、プラス1はまだだと思ふ。これから定着していくようにして欲しい。 |
| | | 学校 | ○自分の思いや感想を自分の言葉で伝える子どもを育成する。 ○児童朝会や遊び集会などで感想発表の場を設ける。 | B | | |
| | | 家庭 | ○家庭内でのあいさつを励行する。 ○PTA保体校外指導部会を中心にしたあいさつ運動に学期に1回は参加する。 ○毎日、保護者から名前を呼んであいさつをする。 ○学期に2回「あいさつがんばりカード」に感想を書く。 | A | | |
| | | 地域 | ○あいさつ・声かけ運動を推進する。 ○登下校時に子どもを見かけたら、あいさつや言葉かけをする。 ○地域での子どもたちの様子について、学校に伝える。 | B | | |
| 進んで健康な体をつくる子の育成 | ○体力テストの「立ち幅跳び」において、クリア数を50%以上にする。 ○児童アンケートで就寝時刻を意識できる児童の割合を70%以上にする。 ・9:00(低) ・9:30(中) ・10:00(高) | 学校 | ○体育学習や委員会活動を活用した運動の日常化をめざす。 ○毎朝、「GM・F(グッドモーニング・フィットネス)」を全校で実施する。 ○授業の始まりに学年の学習内容や発達段階に応じたサーキットトレーニング・エクササイズを毎時間5分間実施する。 ○立ち幅跳びの計測を行う。 ○縄跳び大会を行う。 | A | B | ○元気よく活動している様子うかがえる。 ☆外遊びをさらに奨励して欲しい。 ☆社会体育の活動以外の日は、就寝時刻を10時までとする。 ☆就寝時刻になったら、「おやすみ。」「歯磨きは?」の声かけを行う。 △社会体育や習い事でできないことがあると思ふ。 ○いつも多くの参加者いるようだ。 ☆学校の体育的行事をもっと地域に知らせ、子どもたちの元気な姿を見てもらった方が良いのではないかと。 |
| | | 家庭 | ○自分に適した生活リズムの習慣化を図る。 ○毎日、家庭で決めた就寝時刻を厳守させる。 ○毎月、「チェックシート」の保護者欄には、子どもを励ます取り組みの感想を書く。 | B | | |
| | | 地域 | ○学校の体育的行事へ積極的に参加する。 ○プール納め、運動会、持久走大会に積極的に参加し、児童を応援する。 | | | |